

2026（令和8）年度 栄養学部 保健栄養学科 保健養護専攻 編入学1期 小論文試験問題
解答例

近年、子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、経済的困難や家庭環境の不安定さを背景として、心身の健康に課題を抱える子どもが増加している。ひとり親世帯の増加や保護者の長時間労働、地域とのつながりの希薄化などにより、十分な食事や休息、安心して過ごせる居場所が確保されない子どもも少なくない。このような状況は、子どもが本来保障されるべき「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」に加え、自分の思いや意見を表明する「参加する権利」をも脅かす問題である。

家庭環境の影響は、子どもの心情や発達にも大きく関わっている。不安定な生活環境で育つ子どもは、慢性的な不安や孤独感を抱えやすく、情緒の不安定さや自己肯定感の低下につながることもある。また、十分な大人の関わりを得られない場合、困りごとを言葉にできず、自分の気持ちを抑え込んでしまうこともある。さらに、このような状態が続くことで、学習意欲の低下や友人関係への消極性など、学校生活全体に影響が及ぶおそれもある。

養護教諭として学校現場に携わる際には、こうした子どもの背景を理解し、心身の両面から継続的に支えていく視点が重要であると考えます。日常の健康観察や保健室での関わりを通して、表面には現れにくい心の不調や生活上の困難に気づくことが求められる。子どもが安心して話せる環境を整え、自分の思いを受け止めてもらえる経験を積み重ねることは、心の安定や自己肯定感の回復につながる。また、必要に応じて担任や保護者、福祉機関などと連携し、子ども一人一人に応じた支援を行うことも欠かせない。

子どもが安心して学校生活を送り、健やかに成長していくためには、子どもの権利を尊重し、その声に丁寧な耳を傾ける姿勢が重要である。養護教諭として、日常的な関わりを通して信頼関係を築くとともに、保健室という場を生かしながら、子どもを中心に据えた支援体制の一端を担い、安心できる学校環境づくりに主体的に関わっていきたいと考える。